

渡辺徳夫教授略歴

1960年 2月 大阪府大阪市に生まれる

学 歴

1975年 4月 日本大学豊山高校入学

1978年 3月 同校卒業

1978年 4月 日本大学文理学部独文学科入学

1982年 3月 同大学卒業

1982年 4月 日本大学大学院芸術学研究科修士課程文芸学専攻入学

1983年 3月 同課程退学

1983年 4月 日本大学大学院文学研究科博士前期課程独文学専攻入学

1985年 3月 同課程修了

1985年 4月 日本大学大学院文学研究科博士後期課程独文学専攻入学

1988年 3月 同課程満期退学

職 歴

1988年 4月 北里大学医学部非常勤講師（1989年 3月まで）

1988年 4月 日本大学文理学部非常勤講師（2003年年 3月まで）

1989年 4月 国士舘大学教養部非常勤講師（2003年年 3月まで）

1990年 4月 神奈川大学外国語学部非常勤講師（2003年年 3月まで）

1990年 4月 日本大学生産工学部非常勤講師（1999年 3月まで）

1994年 4月 日本大学法学部非常勤講師（2003年年 3月まで）

2001年 4月 日本大学商学部非常勤講師（2003年年 3月まで）

2003年 4月 日本大学法学部専任講師

2006年 4月 日本大学法学部助教授

2007年 4月 日本大学法学部准教授

vi

2013年 4 月 日本大学法学部教授

2019年 4 月 日本大学薬学部兼任教授（現在に至る）

研究業績

著 書

- 2006年 5月 共著 『独検過去問題集 2006年度版』（ドイツ語学文学振興会編）郁文堂
- 2008年 1月 共著 『事典 日本人の見た外国』（富田仁編）日外アソシエーツ
- 2011年 7月 共著 『ドイツ文法の要点』三修社

論 文

- 1984年 4月 『こわれがめ』の Komik (1) — 脇役ループレヒト・テュムペルについて —
『報告』第19号 日本大学大学院独文学研究会
- 1987年 3月 クライストの『こわれがめ』 — 脇役リヒトについて —
『ドイツ文学論集』第8号（酒井良夫教授古稀記念号）日本大学独文研究室
- 1989年 3月 クライストの『アンフィートリュオン』における分析的手法について
『ドイツ文学論集』第10号（城山良彦教授古稀記念号）日本大学独文研究室
- 1991年 3月 クライストの『ハイルブロンのケートヒェン』における分析的手法について
『ドイツ文学論集』第12号（小栗浩教授古稀記念号）日本大学独文研究室
- 1992年 3月 クライストの『アンフィートリュオン』におけるジャンルの問題
『リェンコイス』第25号 桜門ドイツ文学会

- 1995年 3月 H.v. クライストの『公子ホンブルク』における劇構成
『研究報告 B』 第28巻 日本大学生産工学部
- 1997年 3月 クライストの『公子ホンブルク』における矛盾について
『リュンコイス』 第30号 桜門ドイツ文学会
- 1999年 3月 クライストの表現様式に関する一考察 (I)
『リュンコイス』 第32号 桜門ドイツ文学会
- 2000年 3月 クライストの表現様式に関する一考察 (II)
『リュンコイス』 第33号 桜門ドイツ文学会
- 2001年 3月 ドイツ語技能検定試験 (4 級) の傾向
『リュンコイス』 第34号 桜門ドイツ文学会
- 2002年 3月 狂言『釣狐』の独訳について(1)
『リュンコイス』 第35号 桜門ドイツ文学会
- 2003年 3月 狂言『釣狐』の独訳について(2)
『リュンコイス』 第36号 桜門ドイツ文学会
- 2004年 1月 狂言の独訳—『釣狐』における葛藤の場面を中心に—
『桜文論叢』 第60巻 (長谷川勉先生古稀記念論文集)
- 2006年 1月 H, フォン. クライストの戯曲『こわれがめ』における Utrecht
の象徴的意味について
『桜文論叢』 第65巻
- 2006年 3月 H.v, クライストの戯曲における分析的的手法について—『こわ
れがめ』の場合—
『リュンコイス』 第36号 桜門ドイツ文学会
- 2006年12月 ドイツ語技能検定試験における会話問題の傾向— DaF およ
び CEF の資料に基づく分析と展望—
『異文化相互理解を基礎とした外国語教育の教授法研究』 日
本大学教育制度研究所
- 2008年 2月 クライストの『O 侯爵夫人』における分析的手法について
『リュンコイス』 第41号 桜門ドイツ文学会

- 2009年2月 H.v. クライストの『公子ホンブルク』における構築的形式と非構築的形式
『桜文論叢』第73巻（木村行宏先生古稀記念論文集）
- 2010年2月 クライストの『O 侯爵夫人』—ロメールのテキスト解釈について
『リュンコイス』第43号 桜門ドイツ文学会
- 2012年2月 クライストの作品におけるアナグノリシスとペリペティア
『リュンコイス』第45号 桜門ドイツ文学会
- 2015年2月 H.v. クライストの作品における矛盾の構造
『桜文論叢』第89巻（安藤忠先生・池田勝徳先生・丹羽正信先生古稀記念号）
- 2017年2月 クライストの『こわれがめ』における舞台空間について—映画『こわれがめ』（1937）を手掛かりに
『リュンコイス』第50号 桜門ドイツ文学会
- 2023年2月 最初の狂言独訳について
『リュンコイス』第56号 桜門ドイツ文学会

学会報告

- 1985年6月 共同 W,Hink : Haben wir heute vier deutsche Literaturen oder *eine*? Plädoyer in einer Streitfrage について
日本大学大学院独文学研究発表会
- 1985年11月 単独 喜劇『こわれがめ』—脇役リヒトの性格と劇的機能について
日本大学文理学部独文学科学術研究発表会
- 1988年11月 単独 マインツ大学に留学して
日本大学大学院独文学研究発表会

- 1991年 6月 単独 H.V. クライストの『アンフィートリュオン』における
ジャンルの問題
日本独文学会1991年春季学術研究発表会
- 1996年11月 単独 クライストの『公子ホンブルク』における矛盾について
日本大学文理学部独文学科学術研究発表会
- 1999年12月 単独 ドイツ語技能検定試験（4級）の傾向—文法問題を中
心に—
桜門ドイツ文学会学術研究発表会
- 2003年 6月 単独 独検における会話問題の傾向・分析
日本大学教育制度研究所研究発表会
- 2004年12月 単独 欧州協議会語学力評価基準について— NiveauA1,A 2
を中心に—
桜門ドイツ文学会学術研究発表会
- 2012年 6月 単独 ハイน์リヒ・フォン・クライストの作劇法について
日本文体論学会第101回大会

翻 訳

- 2019年 3月 喜劇『六人僧』— F.A. ユンカー・フォン・ランゲッグによ
る狂言『六人僧』独訳—
『リュンコイス』第52号 桜門ドイツ文学会
- 2021年 3月 喜劇『墨塗』— F.A. ユンカー・フォン・ランゲッグによる
狂言『墨塗』独訳—
『リュンコイス』第54号 桜門ドイツ文学会

教 科 書

- 1990年 2月 共著 『文法・読本 ドイツを夢見て』 三修社
- 1993年 2月 共著 『ドイツより愛をこめて』 三修社

- 2001年2月 共著 『ドイツ語ルネサンス』 三修社
2004年3月 共著 『ハロー！ドイツ語を話してみようか』 三修社
2021年2月 共著 『気分はドイツ』（改訂版） 三修社